

インフルエンザ流行情報について（第26報） 〈最終報〉

●インフルエンザ流行情報

本県における平成29年第19週(5月8日～5月14日)のインフルエンザ流行指数は0.58(第18週は1.53)となりました。全ての地域で減少し、銚田保健所と古河保健所を除く10保健所で流行指数が1.0を下回りました。

なお、茨城県衛生研究所において、平成28年9月5日から平成29年5月14日までの期間にインフルエンザウイルスを検出した192検体の内訳は、AH3(A香港型)が150検体(78.13%)、AH1pdm09が12検体(6.25%)、B型が30検体(15.63%)となっております。

[昨シーズン AH3(A香港型):16.4%, AH1pdm09:40.0%, B型:43.6%]

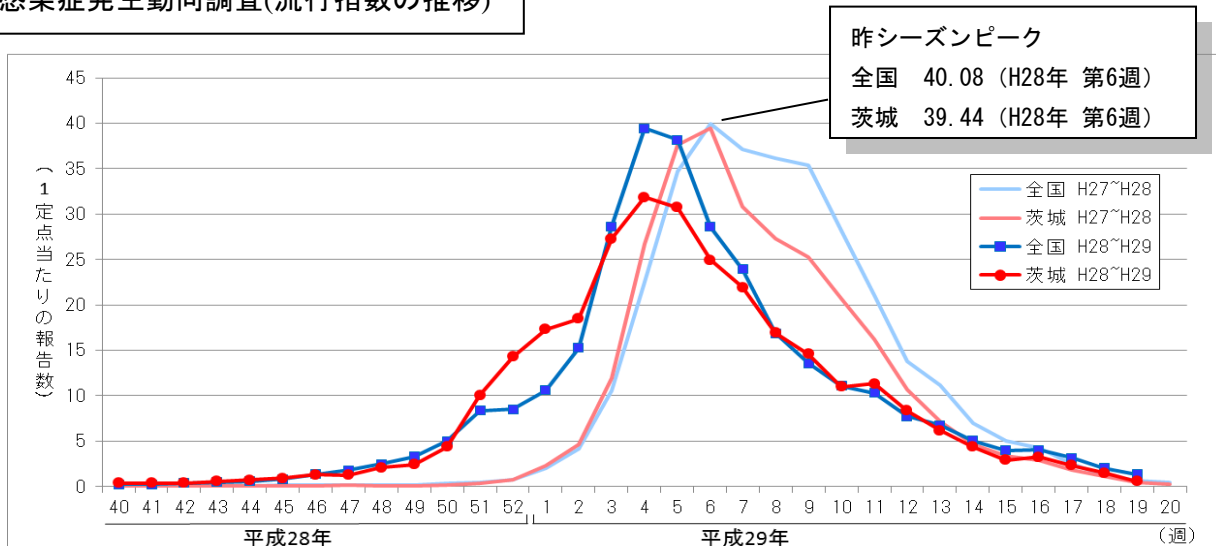
インフルエンザの流行情報および流行マップについては、県全体の流行指数が1.0を下回り、全保健所管内で流行指数が10.0を下回っているため、今回を以て掲載を終了します。

なお、インフルエンザの学級閉鎖等の措置および入院患者の概況については、引き続き届出があった場合のみ、感染症情報センターのホームページに掲載します。

【茨城県感染症情報センターホームページURL】

<http://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/idwr/index.html>

感染症発生動向調査(流行指数の推移)



インフルエンザの流行に関する警報・注意報について

- ① 流行指数が**基準値(注意報: 10 警報: 30)**を超えた保健所区域には「地域注意報」又は「地域警報」を発令します。また、県全体において流行指数が基準値を超えた場合には、「県全域注意報」又は「県全域警報」を発令します。
- ② **注意報**：流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があること、流行発生後であればその流行がまだ終わっていない可能性があることを示します。
警報：大きな流行の発生・継続が疑われることを示します。
なお、警報の解除は終息基準値(10)を下回ったときになります。

《各保健所管内のインフルエンザ流行状況》

保健所	定点数	調査期間： H29. 5. 8～H29. 5. 14 (第19週)		調査期間： H29. 5. 1～H29. 5. 7 (第18週)	
		患者数	インフルエンザ 流行指数※	患者数	インフルエンザ 流行指数※
水戸	17	11	0.65	12	0.71
ひたちなか	8	5	0.63	11	1.38
常陸大宮	8	3	0.38	9	1.13
日立	11	7	0.64	14	1.27
鉾田	5	6	1.20	10	2.00
潮来	8	5	0.63	8	1.00
竜ヶ崎	14	7	0.50	36	2.57
土浦	13	9	0.69	22	1.69
つくば	10	4	0.40	25	2.50
筑西	10	2	0.20	17	1.70
常総	8	0	0.00	3	0.38
古河	8	11	1.38	17	2.13
県全体	120	70	0.58	184	1.53

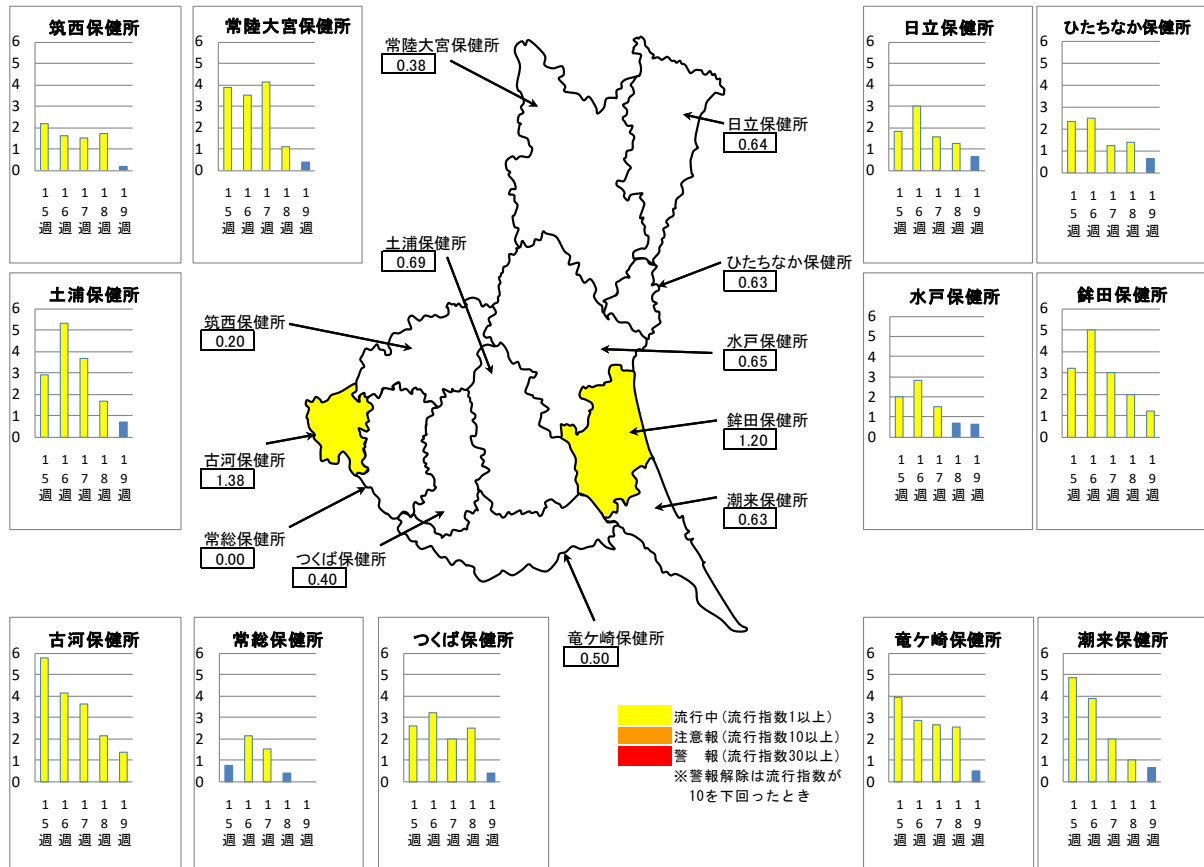
※1 インフルエンザ流行指数は1定点あたり1週間の平均患者数

$$\text{インフルエンザ流行指数} = \frac{\text{インフルエンザ定点において1週間の間にインフルエンザと診断した患者数}}{\text{インフルエンザ定点数}}$$

- ・ インフルエンザ定点数は県内に120医療機関(平成29年5月14日時点)
- ・ 流行指数が1.0を超えると流行期に入ったと判断します。

《茨城県内のインフルエンザ流行マップ》

●2017年第19週(5月8日～5月14日)および過去4週間のインフルエンザ流行状況



《備 考》

インフルエンザの予防について

～ひろげるなインフルエンザ！ひろげよう咳エチケット！～

◆ インフルエンザにかからない、うつさないための対策

☆帰宅時の手洗い

手にウイルスがついたままにしない
ことが大切です



☆咳エチケット

咳やくしゃみをする時は
鼻や口をおさえましょう
マスクをしましょう



☆予防接種

◆ インフルエンザにかかった場合の対応

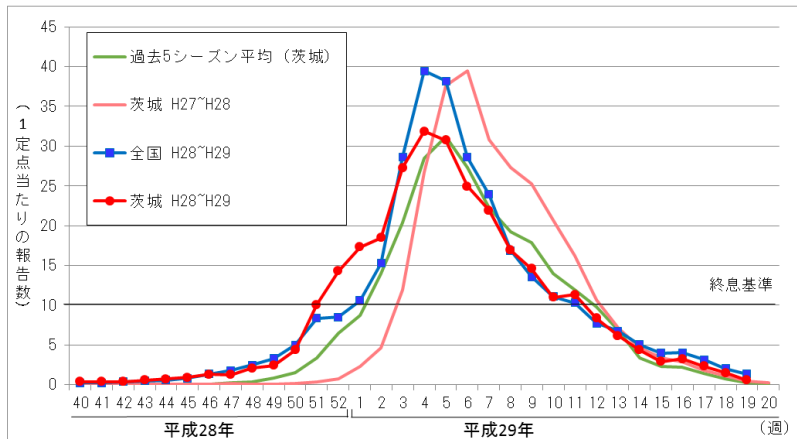
- ・ 早めに医療機関を受診して治療を受けましょう。
- ・ 安静にして、休養をとりましょう。特に、睡眠を十分にとることが大切です。
- ・ 水分を十分に補給しましょう。お茶やスープなど飲みたいもので結構です。
- ・ 一般的に、インフルエンザを発症してから3～7日間はウイルスを排出すると言われてい
ますので、その間は外出を控えましょう。



茨城県感染症情報センター
(茨城県衛生研究所企画情報部)
TEL 029-241-6652

【参考資料】

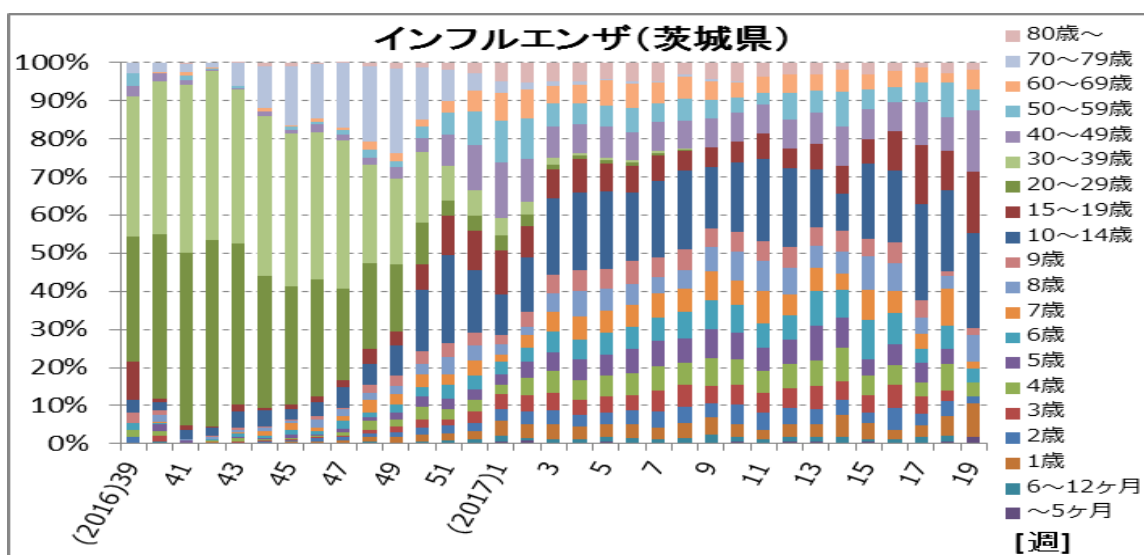
《過去5シーズンと今シーズンの比較》



今シーズンは、2016年第46週に流行指数が1.33に増加し、流行入りとなりました。その後、第51週に注意報が発令され、2017年第4週には警報が発令されました。ピーク時には31.85（第4週）となりましたが、第12週には警報解除となりました。

昨シーズンおよび過去5シーズン平均と比べると流行入りは早く、警報解除は同時期でした。

《週別年齢別報告割合》

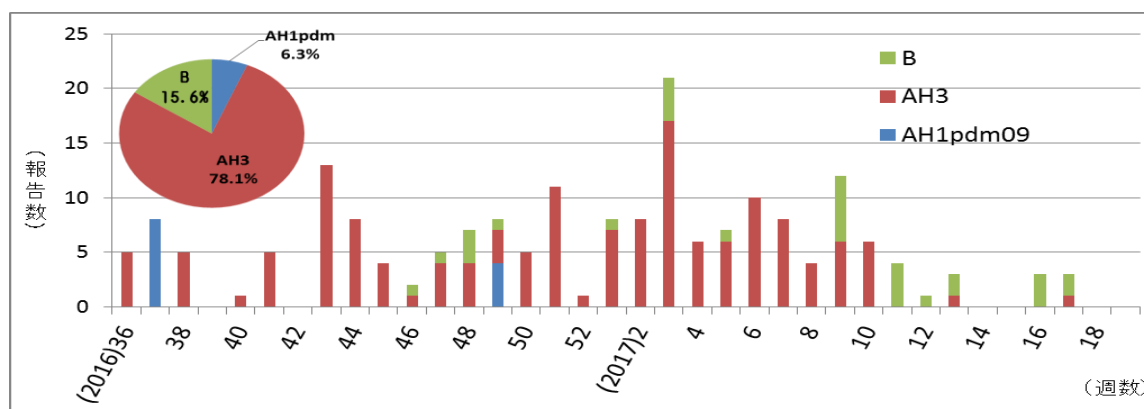


今シーズンは、年齢別に見ると、流行入りから流行ピーク前後までは半数以上が成人であり、ピーク後は19歳以下が7割以上を占めました。

※学級閉鎖・集団発生の情報は、「茨城県インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等の措置について」を参照ください。

《病原体検出状況》

2017年5月18日現在



今シーズンは、AH3（香港型）が78.1%と最も多く、次いでB型が15.6%、AH1pdm09が6.3%検出されました。（昨シーズンはAH3（香港型）16.4%、B型43.6%、AH1pdm09 40.0%）